

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年6月11日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2024年7月5日
明治大学卒業予定年月	2026年3月
留学先大学について	
留学先国	リトアニア
留学先大学	ヴァリニユス大学 (日本語名) Vilniaus universitetas(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語・リトアニア語/ 英語
留学期間	2023年8月～2024年6月
留学先大学で在籍した学年	2年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名:国際関係政治学科 現地言語での名称:Institute of International Relation and Political Science <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input checked="" type="checkbox"/> その他:学部には所属しているが、他学部の履修もできる
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1学期:4月上旬～7月下旬 2学期:9月中旬～2月上旬	1学期:9月上旬～1月下旬 2学期:1月下旬～6月下旬(履修している授業によって異なる。早ければ6月前に終わる) 3学期:～ 4学期:～
学生数	23517
創立年	1570

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (€)	日本円	備考
授業料	0	0 円	
宿舍費	665	112000 円	
食費	882	150000 円	
図書費	0	0 円	
学用品費	18	3000 円	
携帯・インターネット費	120	20000 円	
現地交通費	62	10000 円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費	176	30000 円	
医療費	0	0 円	
保険費	725	123400 円	形態: 明大サポート
渡航旅費	1580	270000 円	
ビザ申請費	130	22287 円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	4358	740687 円	

渡航関連

渡航経路
往路 出発地: 東京 目的地: ヴィリニユス 経由地: ワルシャワ 復路 出発地: ロンドン 目的地: 東京 経由地: 上海
渡航費用
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金: ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:LOT 料金:180310 復路 航空会社:中国東方航空 料金:91330 ∴ 合計:271640
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: Trip.com) <input type="checkbox"/> その他()
滞在形態関連
1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍等)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 3)
3) 共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン(<input type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4) 住居を探した方法:
留学先大学の斡旋
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
リトアニアの寮は寮費は格安だと思いますが(月 70€)、設備はあまり期待しすぎない方がよいと思います。トイレ、シャワーも何部屋かで共用ですし、2、3 人でルームシェアになるので、プライベートな空間はないと考えておいた方がいいです。部屋にもベッド、クローゼット、机、チェストといった最低限の設備しか備えてありません。こう書くと聞こえが悪いのですが、留学の目的として、海外の人とコミュニケーションをとることを目指しているなら、少々プライベートな空間には欠けませんが、その分人とコミュニケーションを取らなければいけなくなるので、語学力やコミュニケーションスキルを向上させる機会にはより多く恵まれると思います。また寮に住んでいると、例えば同じ寮に住む友達と一緒に晩ご飯を作ったり、夜一緒に映画を見たりといったこともしやすく、より交流の機会が増えるので、個人的には寮生活をお勧めします。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

リトアニアは比較的治安が良いので、防犯対策は特にしていませんでした(日本と同じくらいかと)。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

通信料金はとても安く、月12ユーロほどでリトアニア国内で無制限、EU圏内で12GBのプランを使用していました。ヴァルニユス大学には留学生と現地のフルタイムの学生をつなぐ“buddy”という制度があり、新生活でわからないことや大学のことを聞くことができるのですが、私はそのbuddyにsimカードをもらいました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

基本的にはクレジットカード決済で、親に日本の口座に入金してもらっていたので、現地で新たに口座を開設などはしませんでした。

ただ私はクレジットカードを1枚しか持っていなかったのですが、それが使えなくなった時や、旅行などで出費が重なりカードの利用上限に達してしまっ時に他のカードを持っていなかったのが苦労しました。カードは二種類ほど持つておく方が良いと思います。(私は結局REVOLUTという送金アプリを)

また、主にネット上の決済の際、セキュリティ上SMS認証が必要なクレジットカードが多くあると思うのですが、留学先で新たにSIMを購入すると日本の番号がつかえなくなってしまうので、事前に自分のクレジットカードの認証の設定を確認しておくことをお勧めします。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

調味料系は手に入らない、あるいは現地で買うと効果なものが多いので少し持っていくと良いかもしれません。特に私は味噌を使いたかったのですが現地だと高価だったため、親に送ってもらいました。また現地で友達と交流する時などに、例えば日本のお菓子などを持って行っておくと、話のタネになっていいかなと思いました。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
55(ECSC)単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Asia-Pacific Studies	アジア太平洋研究
科目設置学部・研究科	Institute of International Relation and Political Science
履修期間	Autum semester
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Konstantinas Andrijauskas
授業内容	アジア太平洋地域の国々の政治、情勢に関する内容。講義では中国、日本、韓国、インドなどが主に重点的に取り上げられた。授業は講義形式で進められる。
試験・課題等	試験はオープンエンドのもので、配点の異なる大問が三つ出題され、それぞれの大問の中から1つ選択して回答するといったもの。各大問はアジア太平洋地域のある国についての問いになっており、各大問で選ぶ問いの国が被らないように選ばなくてはならなかった。 また試験とは別にアジア太平洋地域に関する3000Wordのレポートも貸された。
感想を自由記入	この授業はアジアに関する内容であるため、他の政治系の講義と比べ学びやすかった。また日本も太平洋アジア諸国の一つとして授業で取り扱われるので、他国の目線から日本を学ぶというのも面白い経験だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
International Communication	異文化コミュニケーション
科目設置学部・研究科	Faculty of Philology
履修期間	Autum semester
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式だが、意見を求められる場面も多い(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	prof. dr. Loreta Chodzkiene
授業内容	様々な国の文化やコミュニケーション方法を学び、国際的な場面で円滑なコミュニケーションを取るにはどうすれば良いかを模索するという内容。教授からの講義とは別に、チリ大学、リガ大学との合同プロジェクト(tellecollaboration)も行った。
試験・課題等	プレゼンテーションが2回と他大学との共同課題(主にそれぞれの国の文化の違いを様々な視点からまとめるといったもの)で、特別な試験はなかった。
感想を自由記入	講義は少人数で、教授から意見を求められることが多かったが、正しい答えを述べなくてはいけない講義ではないので、リラックスした雰囲気での講義だった。また担当教授が日本に滞在していた経験があるらしく、自分から発言するのが得意でない私によく質問を振ってくださったので発言しやすかった。事前知識があまり必要ない講義なので、履修しやすいと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Nordis Studies	北欧研究
科目設置学部・研究科	Institute of International Relation and Political Science
履修期間	Autum semester
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Liutauras Gudžinskas
授業内容	北欧諸国の政治、経済、外交について学ぶ。また各回授業のはじめに先生がその1週間であった北欧諸国に関するニュースを学生に聞いていた。授業は基本講義形式であったが、先生が学生に意見を募ることも多かった。毎週各回の講義に関する資料がポータルサイトにアップロードされていた。
試験・課題等	試験はオープンエンドの記述式で、オンライン上で行われた。内容としては主に授業でやったことというよりは、各回で配布されていた資料の内容にそったものだった。
感想を自由記入	この授業に限ったことではないが、Institute of International Relation and Political Scienceの学部で開校される講義は比較的専門性が高いものが多く、この授業も、政治分野に知識がある学生が多かったため、個人的についていくのがとても辛かった。特に自分の意見を求められる場面では、他の学生(ほとんどがヨーロッパからの留学生)は自国の政治との関係と絡めながら発言をしていたが、他のヨーロッパ諸国と比べると日本は北欧諸国との関係が薄く、また私自身政治分野に強くなかったため、思うように意見できなかった。また専門的な用語も多用されるため、政治に興味関心がある人以外はあまりおすすめできないと思った。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Lithuanian Language A1	リトアニア語 A1
科目設置学部・研究科	Faculty of Philology
履修期間	Autumn semester
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が3回
担当教授	Dr. Vaida Našlėnaitė Eberhardt
授業内容	リトアニア語の初心者向けの講義。学生だけでなく、リトアニア語を学びたい人も参加できる。基本的には大学から配布される教科書に沿って授業が進んでいく。各単元でテーマが決まっていて(食べ物、家族、住居など)、各テーマに沿ったフレーズを学んでいく。フレーズを学んでいく過程で、文法事項も同時進行で学ぶ。教科書には全部で10の単元があるが、Lithuanian Language A1レベルでは1から5までを学ぶ。
試験・課題等	テストは中間、期末の2回あり、リスニングとライティング、リーディングがある。ライティングは簡単な文章を書くものもあるが、ほとんどは文法事項の選択問題であった。リーディングは短い文章を読んで内容を問う選択問題だった。
感想を自由記入	A1レベルでは先生も英語で授業を行うため、リトアニア語の知識が何もなくとも大丈夫だったが、リトアニア語は他の言語と比べてもとても文法が複雑で、とても大変だった。特に私は英語以外の言語を学んでこなかったため、英語や日本語にはない男性、女性名詞の概念や格変化などを理解するのが難しかった。他言語を第二外国語としてやっていた方が少し楽かもしれないと感じた。しかしリトアニアで生活する上で、やはり簡単なフレーズを覚えておくのと役に立つことはたまにあるのでお勧めできる授業である。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Lithuania and Lithuanians Today: Sociocultural Matters	今日のリトアニアとリトアニア人
科目設置学部・研究科	Faculty of Philology
履修期間	Autumn semester
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Inga Hilbig
授業内容	リトアニアとリトアニアについて、学生自身の出身国と比較しながらさまざまな方面から学ぶ。主に価値観や生活様式、文化などに注目することが多く、リトアニア人の国民性などを、参加している学生の出身国と比較するなどした。
試験・課題等	テストはなく、“自身が自国の文化にどのような影響を受けて育ってきたか”ということテーマにしたショートレポートが一回と、リトアニアと他国を比較しまとめるというプレゼンが一回あった。プレゼンは個人で行っても複数人で行ってもよかった。
感想を自由記入	少人数のクラスだったため、意見を求められる機会も多かったが、専門的な知識が必要な授業ではないので、発言しやすかった。また他の学生も自分の国について話すことが多かったため、それらを聞くのも楽しかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Qualitative Research Method	質的調査法
科目設置学部・研究科	Institute of International Relations
履修期間	Autumn Semester
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Liucija Vervečkienė, Rosita Garškaitė-Antonowicz
授業内容	授業は主に二つに別れており、一つはさまざまな調査法についての講義(レクチャー、毎週開講)、もう一つは先生から配布される資料を参考にして実際にその調査法について学生と先生とで話し合うセミナー(隔週)という後世になっている。留学生の参加者もいるが、フルタイムの学生が多かった。量的なデータを扱う量的調査法(Quantitative Research method)とは対照的に、数値化できないデータを扱う質的調査法はどのようなメリット、デメリットがあり、どのような対象を調査する時に適した調査法であるかを学んでいく。また授業と同時進行で実際に質的調査法を用いたリサーチをグループで行う。
試験・課題等	課題は主に3つあり、一つは隔週で行われるセミナーに使用する資料を事前に読む(毎回40-60ページほどある)、二つ目は授業と同時進行で行われるグループワークで、実際に質的調査法を用いてリサーチを行う。
感想を自由記入	この授業はフルタイムの学生が多く、また課題の量、内容共に私にとっては難易度が高かった。グループで行うリサーチでは、グループの学生とうまく意思疎通ができず、かなり迷惑をかけてしまった。このグループワークは実際に質的調査法を用いて調査を行い、先行研究を複数読みそれを要約、そして調査した内容と先行研究の要約(literature review)を比較し結論を導くといった本格的なものであるため、私のように今まで調査を用いた研究を行ったことのない人には難易度が高い授業だと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Podcasts and Audio Storytelling	
科目設置学部・研究科	Communication Faculty
履修期間	Spring semester
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Karolis Vys̃niauskas
授業内容	ポッドキャストを作る授業。録音、音声編集といった音声コンテンツの技術的な面から、ポッドキャストにおけるストーリーの組み立て方、またインタビューの仕方など音声コンテンツについて総合的に学ぶ。
試験・課題等	中間課題として audio postcard (2分ほどの短いオーディオ)、最終課題として実際のインタビューを通して任意の人物についての物語を7分のオーディオにまとめるというものが課される。
感想を自由記入	この授業では実際にポッドキャストを作るという、普段あまり経験しないようなことができよかった。さらに最終課題でインタビューをし、その人物のストーリーをオーディオにまとめるというものが課されたが、そのインタビューもとても貴重な経験になってよかった。また他の授業に比べ、さまざまなバックグラウンドを持つ学生が参加しているのも面白かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
History of Lithuania	リトアニアの歴史
科目設置学部・研究科	Faculty of History
履修期間	Spring semester
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Algirdas Jakubc̃ionis
授業内容	1918年から1990年ソ連崩壊までのリトアニアの歴史を学ぶ。
試験・課題等	オープンエンドの紙媒体の期末試験のみ。このテストのみで評価され、出席点などはなかった。
感想を自由記入	もしリトアニアに留学を考えているのであれば、リトアニアの歴史を知っていて損はないと思う。しかし教授が高齢ということもあり、授業自体はかなりわかりづらく、また教授の体調的な理由で休講になることもしばしばあった。また期末試験のみで評価されるのだが、その試験の設問も曖昧で、他の学生も少々混乱しているようだった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Lithuanian Language II/II(A2)	リトアニア語(A2 レベル)
科目設置学部・研究科	Faculty of Philology
履修期間	Spring semester
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 90 分が 3 回
担当教授	Rita Migauskiene
授業内容	リトアニア語の A2 レベルの授業。
試験・課題等	リスニング、文法問題、短いリーディングなどを含む中間、期末試験。
感想を自由記入	リトアニア語の A1 を前の学期に履修していたので、続けて A2 も履修した。講義もリトアニア語で行われ(A1 レベルは説明は英語)全くのリトアニア語初心者は履修できない講義になっている。講義の使用言語がリトアニア語になると一気に難易度が上がると感じた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Small States Studies	小国研究
科目設置学部・研究科	Institute of International Relation and Political Science
履修期間	Spring semester
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 90 分が 1 回
担当教授	GEDIMINAS VITKUS
授業内容	世界で小国とみなされている国家について、“そもそも何を持って小国と言えるのか”という小国の定義について学び、実際にリトアニアを”小国”としてケーススタディを行う。最初の 3 回は主に小国の定義について、その後はリトアニアを例としたケーススタディ、後半は各生徒が自身が小国であると考えている国家を一つ選び、その国についてプレゼンを行う。
試験・課題等	最終課題として、自身が小国だと考える国を一つ選び、そのわけと、その国が国際社会で生き延びていくために利用している資源、他国との関係などをプレゼン、レポートにまとめるといったものが課された。
感想を自由記入	まず小国研究で、小国の定義から考えるという過程が意外と難しくもあり、同時に面白かった。また小国の例としてリトアニアのケーススタディを行ったので、小国について学ぶと同時にリトアニアについて学ぶこともでき一石二鳥だった。また最終課題のレポートは分量が多く大変だったがとても学びの多い講義だった。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。
(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	TOEFLの勉強、受験
	10月～12月	協定留学学内先行
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	ビザの申請、航空券購入、協定校へのアプライ、寮のアプライ
	8月～9月	渡航、秋学期開始
	10月～12月	秋学期、クリスマス休暇
留学/帰国年	1月～3月	秋学期試験、春学期開始、イースター休暇
	4月～7月	
	8月～9月	春学期試験、帰国
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

まず留学を実際にしてみて感じたことは、どの国に留学したとしても得られること、学ぶことはあるということです。だからもし留学してみたいけれどどの国に行けば良いかわからない、という方がいたら、本当に些細なきっかけで決めても良いと思います(街並みが素敵、食べ物が美味しそうなど)。日本を出て生活をするというだけでも、多かれ少なかれ日本との違いを感じることがあると思いますし、そこから得られることもたくさんあると思います。ここからはどの国に留学しても得られることはあるということは前提として、リトアニア留学のメリットについて述べていこうと思います。

まず私がリトアニアのヴィリニウス大学を選んだ理由は、1.その国の文化を感じたいから首都にある大学に行きたい 2.大学がカッコよかった 3.街並みがなんとなくカッコいい ことでした。実際リトアニアが第一志望ではありませんでした。実際に行ってみて、特に治安の良さ、物価の安さは大きなメリットだと思いました。治安が良いというのは精神的な安定につながると感じたし、物価が安かったおかげでできることの幅も増えたように思います。生活費を抑えられたおかげで、旅行にもたくさんいくことができました。(ヨーロッパ 20 カ国ほど)この旅行に関しては、遊びで行っていた部分が大きいですが、何カ国もいくことによってさまざまな国を比較し、ヨーロッパの国々の共通点、異なる点を発見することができたので、とてもよい経験になったと思います。もしリトアニアに留学することになったら、たくさんヨーロッパを旅行することをお勧めします。航空券も安く、北欧などには安い時で 15 ユーロほどでいくことができました。

またリトアニア自体はあまり大きな国ではないですが、緑が多く、一方で中心街は歴史的な建物や商店が揃っているので、適度にこじんまりとしたところで生活したい方にはとても良いと思います。冬はとても寒く日も短いのでその点は少し注意が必要です。よく日照時間が短く天気も悪いため、北国に留学すると鬱になると言われていますが、そういうこともあるかもしれないということを入れておけば、過度に心配しすぎることはないと思います。

最後に、はじめにも述べたように、どこに留学をすることになっても得られるものは必ずあります。そのためいろんな違いや文化を学ぼうというオープンな気持ちで留学に挑むことが重要だと個人的には思います。皆さんの留学が良い経験になることを願っています。